

# コンサートレポート

## アンサンブルポニーかつしか第11回定期演奏会

平成も終わりに近い去る4月27日、かつしかシンフォニーヒルズ「モーツァルトホール」にて表記の定演が催され伺った。この会場は第10回の全国大会が開かれ又、小ホールでは昨年、全シ連主催の第2回楽器別交歓会を催している。

当団は平成2年1月に発足した全シ連の中で最も歴史のある団である。会場に入るや1階席800名収容席が既に満席になっており戸惑った。冒頭の区長のご挨拶に続いての第1部は「楽器パートの魅力」と題してオープニングの「ウィーンはウィーン」に続いて、楽器群別に6曲が演奏された。最後に演奏された「天国と地獄」はマリimbaの熱演で万雷の拍手がわき起こり、それまでのステージと、客席の緊張感もなくなり、五十嵐先生のユーモアあふれる司会と共に演奏会も盛り上がってきた。



第2部は1960~70年代のなつかしい曲で「バケーション」など、最後のポールアンカの「ダイアナ」は五十嵐先生の指揮ぶりも躍動的で最高潮になった。アンコールの「サウスポー」はバックスクリーンのピンクレディの映像と共に会場も同時に若返ったような熱気につつまれた。アンコール2曲目の「いつでも夢を」では曲の進行と共に、楽器群別に場内を通過してロビーに退席するなど演出が見られすばらしかった。当団は30年近い歴史の中で一時、団員の減少に悩まされていたが、最近、団員も若い団員がふえ、定演の会場も小ホールから大ホールとなり1階席が満席となり、今後2階席も満席になりそうである。ポニーかつしかは若返りつつある。五十嵐先生をはじめ全団員のご努力に敬意を表したい。 全シ連 岡村

## 大阪「アンサンブルベルタ」第12回定期演奏会

去る5月26日(日)大阪阿倍野の市民学習センターホールでベルタの第12回定演が催され、今年もサイレントVnを持って客演させて頂いた。団の皆さんお互いに家族的に親しく、私もその一員の中に入れて頂き楽しい合奏ができるのは大きな生きがいである。ご来場のお客様は約120名、殆ど常連とお見受けした。女性のユーモアたっぷりの司会もありサロンコンサートのよう



にアットホームな演奏会で楽しい。第1部と第3部の全員の合奏は5曲ずつ10曲で若山先生の120曲の編曲の中から、皆に好評な曲を厳選したもの。この団の管楽器主体の構成に合わせて、ジャズ、ポップスの曲が中心でサクソなど上手な団員が多く、最後の「スイートキャロライン」など楽しくて感動し久しぶりに弾きながらウルウルになった。第2部は当楽団のウリとなっている小アンサンブル、楽器群ごとにSax、Fl + Cl + KBほかAc + Gtなどによる全体合唱、金管中心の4ブロックの演奏。何れも楽しかったが、サクソグループの「アメージンググレイス」は特にハーモニーがすばらしかった。

翌日は私の希望により堺市の「仁徳天皇陵」ほか古墳や千利休の茶室跡などを、若山先生とCIの島屋さんのご案内して下さいました。このお二人は仁徳天皇陵に近い名門、三国ヶ丘高校の卒業生でさすがによく説明して頂けた。堺市役所の21階展望室から眺めた古墳群や大阪や堺は1600年も昔の大和政権の栄華をしのぶことができ感激した。若山先生、島屋さん、ベルタの皆様ありがとうございました。 全シ連 岡村